

情報科学部 ディプロマ・ポリシー

■ 情報科学部

(1) 情報科学に関する基礎的及び応用的知識と活用力

情報科学の多様な領域に関する基礎的及び応用的な知識と技能を体系的に修得し、これらを適切に活用できる力を備えていること。

(2) 情報科学に関する知識と技能を活用した課題発見力と課題解決力

実社会における多様かつ高度な課題を発見し、情報科学の知見を活かし、異なる立場や専門性を持つ他者と協働して解決策を提案できるとともに、自らの専門を駆使して新たな価値の創出に取り組む力を備えていること。

(3) 社会的責任を自覚し、持続可能な社会の実現に貢献できる力

情報技術の発展に伴う社会的影響や倫理的課題を的確に認識し、持続可能な社会の実現と発展に主体的に貢献する姿勢を備えていること。

■ 情報科学科

本学科には、情報科学の知識・技能を活用して多様かつ高度な社会課題に取り組み、持続可能な社会の実現と発展に寄与できる社会実装志向の専門人材を育成することが社会から期待されている。そうした人材を育成するために、本学科では、規定の期間以上在学して所定の課程を修め、必要な単位を修得し、以下に示す知識や技能、態度の獲得目標を達成した者に、学位〔学士（情報科学）〕を授与する。

<知識・理解・基盤的技能>

(1) 現代社会の理解に必要な人文・社会科学を中心とした基礎的な知識を教養として修得し、情報科学に関する専門的学びに主体性をもって繋ぐことができる。

(教養と主体性)

(2) 情報基盤技術を踏まえた上で、情報ネットワークの構築や、社会システムの提案を行うことができる。(社会・情報基盤構築力)

(3) 人間中心設計を踏まえた上で、AI との親和性を意識した先端情報システムの提案と設計を行うことができる。(先端情報システム提案力)

(4) データ活用力を用いて実課題に対するビッグデータ分析を図り、AI 応用力を発揮して情報サービスの構築を提案することができる。(情報サービス構築力)

<汎用的技能>

(5) 多様な他者と協働して実社会における多様かつ高度な課題を発見し、幅広い知識を活用して解決策を検討・提案できる。(協働的实践力)

<態度・志向性>

(6) 情報技術の発展に伴う社会的影響や倫理的課題を認識し、倫理観と責任感をもって行動することができる。(倫理的判断力・社会的責任感)

<総合的な学習経験と創造的思考力>

(7) (1) から (6) を素地とし、情報科学に関する専門性を活かすことで、社会の諸課題の解決を試み、新たな価値創出を意識した取組を実践できる。(課題解決力・創造的思考力)